

東北の林木育種

No.215 2017.7

東北育種場の平成29年度の重点取り組み事項

東北育種場長 関 充利

1 はじめに

皆様には日頃から、東北育種場の業務運営にご理解とご支援をいただいております。厚く感謝申し上げます。

昨年改正された「森林・林業基本計画」においては、戦後造林された1000万haを超える人工林が主伐期を迎えており、再造林による確実な更新を図ることとし、そのため優良種苗の確保に係る各種施策を推進することが重要と指摘されています。

このため、東北育種場では、「森林・林業基本計画」、「森林・林業・木材産業分野の研究・技術開発戦略」等を踏まえ、「森林総研中長期計画」に基づき、当場に課せられた課題を確実に実施するとともに、研究開発のハブ機能の強化により関係機関への研究成果の橋渡しを進め、成果の活用を最大化を図ることとしています。

2 平成29年度の重点取り組み事項

(1) スギ・カラマツのエリートツリー・特定母樹の開発推進

前中期計画で選抜した第2世代の候補木から、スギとカラマツのエリートツリー及び特定母樹を確定し、現在も開発を進めています。そして、エリートツリー・特定母樹等の開発品種に適した育苗方法を確立するために、各家系の育苗特性の把握に取り組みます。

さらに、開発品種の種子を短期間で生産できる種子生産方法の技術開発に取り組みます。

(2) マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発と海岸林再生用苗木の大量生産技術の開発

マツノザイセンチュウにより被害を受けた東北地方の森林や、東日本大震災で被災した海岸防災林等を再生するため、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発及び普及を目指します。

(3) カラマツ種子・苗木の安定的な供給技術の開発

東北において、カラマツの造林面積が拡大し

ていることから、種子不足となっています。カラマツ種子・苗木の安定的な生産を図ることが課題であり、着花の特性評価や促進技術の開発を関係県と共同で進めます。

(4) 林木遺伝資源の収集及び林木遺伝子銀行110番の推進

林木遺伝資源の収集は、品種開発と並んで林木育種事業の柱の一つです。第4期中長期計画では、新需要が期待できる有用樹種について、優良系統の選抜が可能となる母集団の作成を行うこととされています。東北育種場ではキハダ、ウダイカンバ等について、重点的に林木遺伝資源の収集保存を行うこととしています。また、松くい虫被害の拡大により消失の危機に瀕しているマツ類の林木遺伝資源の保存にも取り組んでいます。

林木遺伝資源の収集保存の一環として行っている林木遺伝子銀行110番の取組についても、積極的に展開していくとしています。

なお、陸前高田の奇跡の一本松の後継樹については、里帰りの日まで引き続き育苗管理を行っていきます。

また、新たに林木育種連携ネットワークが平成28年度から開設されたことによって、メールマガジン等を利用した情報発信を行い林木育種の情報を広く公開していくこととしていますので、関係機関及び関係者のご登録・参加をお待ちしております。



東北育種場外観

2017年7月号の紙面

東北育種場の平成29年度の重点取り組み事項 1
 【林業の現場から】
 いわて林業アカデミー開講 2

【育種トピックス】
 平成28年度東北育種基本区における新品種の開発 3
 組織名称変更・人事異動のお知らせ 4

林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場
 Tohoku Regional Breeding Office, Forest Tree Breeding Center Forestry and Forest
 Products Research Institute

【林業の現場から】

いわて林業アカデミー開講

岩手県林業技術センター 中山 英明

1 いわて林業アカデミー

岩手県では、林業の知識や技術を体系的に習得する研修として、今年4月に「いわて林業アカデミー」を新たに開講しました。

実習を重視し、林業の現場で活躍できる人材の養成を目指します。

2 いわて林業アカデミーの3つの特徴

(1) 資格を取得し現場で活躍！

安全かつ効率的に従事するため9つの資格を取得します。資格の取得は、雇用者にとっても大きな魅力です。

(2) 多くの林業機械に慣れる！

機械化が進む林業では、林業機械の知識と技術の習得が特に重要です。アカデミーでは様々な林業機械の操作の練習ができます。

(3) オールいわてで就業をサポート！

研修の質的充実を図るため、県内林業団体10団体と民間企業11企業による「サポートチーム」が結成されました。実習では現場のプロ・機械のプロから様々なアドバイスが得られます。

いわて林業アカデミーの概要

- ・定員 15人
- ・研修期間 1年間
- ・受講料 118,800円
- ・講師 県林業職員、大学職員、いわて林業アカデミーサポートチーム員など
- ・研修日数・時間 年間223日 1,533時間

実習時間は1,229時間で全講義時間の約8割を占めます。研修科目は林業基礎から特用林産など12科目48教科と多岐にわたっています。その中には、社会人基礎や地域貢献活動も含まれます。また、就業体験（インターンシップ）は年間23日間、研修生は最大5つの企業で就業体験することができます。

3 いわて林業アカデミー開講式

4月11日、「いわて林業アカデミー」の開講式が県林業技術センターで行われました。

開講式では、達増岩手県知事が「県内では森林資源の循環利用や林業の生産性向上を担う人材を確保・育成していくことが求められており、研修生の皆さんには、本県林業の最前線で活躍されることを

期待しています。」と激励しました。



達増岩手県知事（中央左）と赤澤林業技術センター所長（中央右）を囲んで記念撮影するいわて林業アカデミー第1期生15人

4 サポートチームによる協力体制

開講式に先立ち、県林業技術センターといわて林業アカデミーサポートチームは、いわて林業アカデミーの実施協力に関する覚書を締結しました。

サポートチームは、技術スタッフの派遣及び技術指導や実習フィールドの提供、就業体験の受入れなどを行い、研修生を支援します。サポートチームの協力により、いわて林業アカデミーの質的充実が図られることを期待しています。



赤澤所長（中央右）とサポートチーム構成員の皆さん



サポートチームによる研修指導

【育種トピックス】

平成28年度東北育種基本区における新品種の開発

東北育種場 育種課 井城 泰一

1 はじめに

平成28年度に東北育種基本区においては、アカマツの「マツノザイセンチュウ抵抗性品種」(以下、抵抗性マツ)として4品種(表-1)が開発され、国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター優良品種・技術評価委員会において審査を受けて認定されました。

また、東北育種場が選定したスギ第2世代精英樹及びカラマツ第2世代精英樹の中から、それぞれ9個体が「特定母樹」として農林水産大臣の指定を受けました(表-2及び表-3)。

2 平成28年度に開発された新品種の概要

(1) マツノザイセンチュウ抵抗性品種

東北地方では、抵抗性マツの育種事業に平成4年度から東北育種場と育種基本区内の各県とが共同して取り組んでいます。

平成28年度は、岩手県内で選抜されたアカマツ3個体、新潟県内で選抜されたアカマツ1個体が開発されました。今回開発された系統を合わせて、東北育種基本区で開発された「マツノザイセンチュウ抵抗性品種」の総数は、アカマツで57品種、クロマツで44品種となりました。

(2) 特定母樹

特定母樹とは、森林が持つ二酸化炭素の吸収作用を保全・強化するために、平成25年5月に改正された「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法(間伐等特措法)」に基づいて農林水産大臣が指定する成長の優れた樹木です。東北育種場では、スギ及びカラマツの第2世代精英樹の中から、特に成長が優れた個体を9本ずつ選定し特定母樹に指定されました。東北育種基本区で指定された特定母樹は、スギでは、平成27年度までに指定された27系統とあわせ36系統となり、今回初めて指定されたカラマツは9系統となります。

3 おわりに

開発・指定された優良な品種による採種園が造成され、そこから生産された苗木が、下刈り作業の省力化、松枯れ対策や海岸林再生に活用されることを期待します。今後も各県や民間と協力して、優良な品種の開発を進めていきます。

これまでに開発された優良品種については、森林



写真-1 マツノザイセンチュウ抵抗性新潟(上越)アカマツ41号

写真-2 指定された特定母樹
(左)スギ東育2-154 (中央)カラマツ東育2-1
(右)カラマツ東育2-10

総合研究所林木育種センターのホームページ内の「林木の新品種の開発と普及」をご参照ください。

表－1 平成28年度に開発した「マツノサイセンチュウ抵抗性品種」

選抜地	品種名称
岩手県	マツノサイセンチュウ抵抗性岩手（藤沢） アカマツ54号
岩手県	マツノサイセンチュウ抵抗性岩手（花泉） アカマツ94号
岩手県	マツノサイセンチュウ抵抗性岩手（花泉） アカマツ114号
新潟県	マツノサイセンチュウ抵抗性新潟（上越） アカマツ41号

表－2 平成28年度に指定されたスギの特定母樹

指定番号	樹木の名称	植栽に適した地域※
特定28-20	スギ東育2-27	【第一区】 青森県・岩手県
特定28-21	スギ東育2-38	
特定28-24	スギ東育2-102	
特定28-25	スギ東育2-108	【第三区】 宮城県
特定28-22	スギ東育2-49	【第一区】 秋田県・山形県
特定28-23	スギ東育2-55	
特定28-26	スギ東育2-154	
特定28-27	スギ東育2-155	【第二区】 新潟県
特定28-28	スギ東育2-158	

※林業種苗法の配布区域

表－3 平成28年度に指定されたカラマツの特定母樹

指定番号	樹木の名称	植栽に適した地域
特定28-2	カラマツ東育2-1	青森県・岩手県・ 宮城県
特定28-3	カラマツ東育2-4	
特定28-4	カラマツ東育2-7	
特定28-5	カラマツ東育2-10	
特定28-6	カラマツ東育2-11	
特定28-7	カラマツ東育2-14	
特定28-8	カラマツ東育2-16	
特定28-9	カラマツ東育2-17	
特定28-10	カラマツ東育2-20	

組織名称が変わりました

今年4月から森林総研法の改正により「国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場」という名称に変わりました。

引き続き東北における林木育種事業を積極的に進めていきたいと考えておりますのでご協力をよろしくお願い致します。

人事異動のお知らせ

転出（H29.3.31付）

細川 齊
東北森林管理局森林整備部技術普及課長
（東北育種場遺伝資源管理課長）

長谷部 辰高
林野庁森林整備部研究指導課育種班
特定母樹係長
（東北育種場育種技術専門役）

転出（H29.4.1付）

辻山 善洋
北海道育種場遺伝資源管理課収集管理係長
（東北育種場育種課育種技術係長）

転入（H29.4.1付）

園部 近守
東北育種場遺伝資源管理課長
（東北森林管理局森林整備部企画官）

湯浅 真
東北育種場育種課育種技術係長
（北海道育種場遺伝資源管理課収集管理係長）

竹田 宣明
東北育種場育種技術専門役
（九州育種場育種技術専門役）

東北の林木育種 No.215

発行日 2017年(平成29年)7月10日
発行 林業研究・技術開発推進
東北ブロック会議育種分科会
編集 国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター
東北育種場
〒020-0621 岩手県滝沢市大崎95
TEL (019)688-4518 FAX (019)694-1715
http://www.ffpri.affrc.go.jp/touiku/
©2009Printed in Japan 禁無断転載・複写